

経営比較分析表（平成28年度決算）

宮城県 日向市

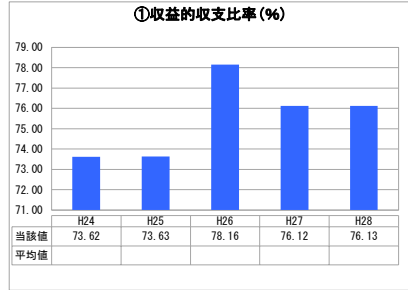
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	4.67	100.00	2,700

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
62,746	336.93	186.23
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,930	2.18	1,344.04

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



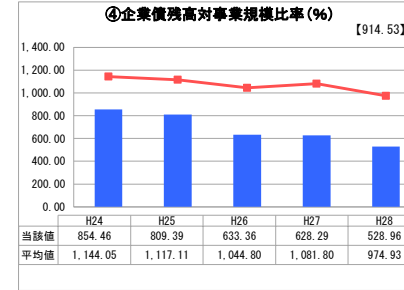
「単年度の収支」



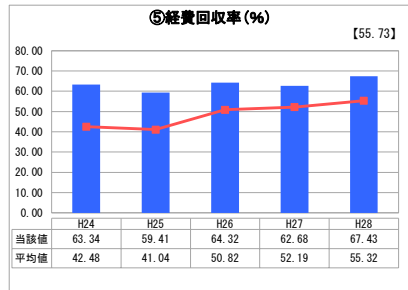
「累積欠損」



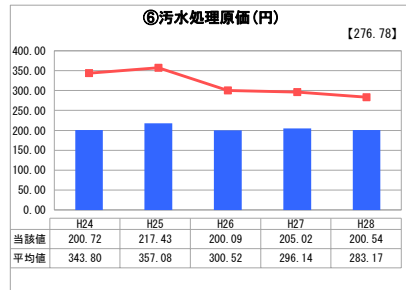
「支払能力」



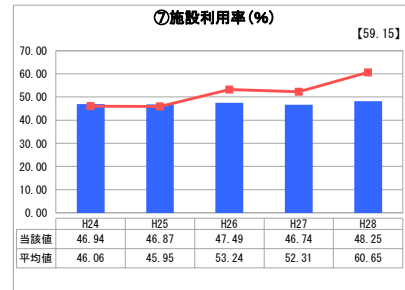
「債務残高」



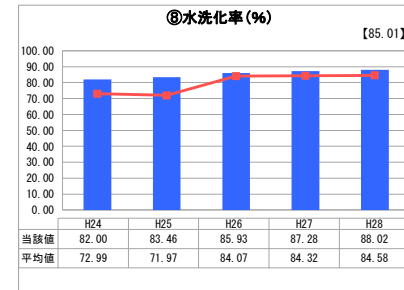
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

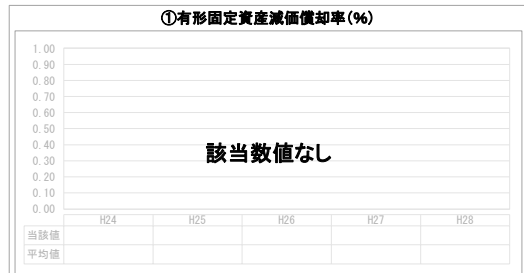


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

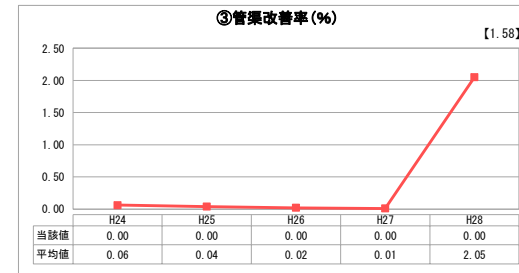
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

「収益的収支比率」については、前年と比較するとほぼ横ばいで単年度収支が赤字であることを示し、増加傾向とは言えない状況です。しかし、年々、総収益については増加しており、総費用については減少しているため、使用料収入の確保と費用の抑制については良好な状態です。今後も、引き続き改善していく必要があります。

「経費回収率」については、100%を下回っているものの、平均値を超え例年より増加しています。先述したところの使用料収入の確保が増加傾向に繋がっていると考えられます。

「企業債残高対事業規模比率」は、平均値を下回っており、年々減少しています。地方債残高が低いのは、今はまだ建設改良費を使用する時期ではなく企業債として含まれていないためですが、H32年度から徐々に建設改良費を必要とする補修工事が進められる予定です。

「汚水処理原価」についても、平均より低い推移で経過しているため、効率的な汚水処理が実施されている状況です。

「施設利用率」はH26年から平均値を下回っています。しかし、H28年の数値は前年より増加しており、晴天時一日平均処理水量が多くなったことを示しています。これは、「水洗化率」で増加していることでわかるように、徐々にではありますが、接続数が増えてきているためと考えられます。今後も、水洗化率100%に向けて取り組んでいくことが求められます。

2. 老朽化の状況について

今は管渠改善はないですが、各施設の老朽化が進んでいる状況です。老朽化に伴い、H23年に行った機能診断によりH32年度から計画的に、長寿命化工事を実施予定です。

全体総括

使用料収入が増加し、一般会計からの繰入金額が減少しているところは改善しています。新規の接続が年に数件増える程度であることに加え、今後は区域内人口の減少も考えられます。少しずつですが、今後も総収益の一番の収入源である使用料の確保に努め、場合によっては使用料の見直しも検討する必要がありますと思われる。

費用面では、維持管理費と地方債の適正な運用を継続し、経営の負担にならないよう努めます。

なお、経営戦略については、平成31年度までに策定の予定です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。